

田富小だより

令和4年度
第3号
6月28日
田富小学校



5年生、躍動す！！



令和4年1学期も終盤を迎えています。あっという間の3か月で、残りも実質2週間とちょっとになってしまいました。どの学年も精力的に学習に励んでいるのですが、5年生はかなり忙しい1学期を送りました。

まず、6月1～2日に八ヶ岳少年自然の家を拠点に林間学校に行ってきました。初日の午前中は、飯盒炊飯。感染症に十分注意しながら、火をおこし、食材を調理して



カレーライスを作りました。高原の林の中、みんなで食べるカレーライスは格別な味だったようです。午後は冒険ハイク、夜はナイト追跡と、グループによる活動があり、友達と協力することの大切さを知ることができました。翌日は、美し森絵図ハイク。ちょっと厳しかったかも知れませんが、一生懸命頑張りました。アイスクリームの味も忘れられないものになりました。翌週には、まちづくり時習塾、名執さん御夫妻の指導で総合的な学習の一環としての田植え



体験。米作りの第一歩を踏み出しました。林間学校・田植え体験とも好天に恵まれ、教育効果のあがる活動を行うことができました。翌週の16日には、児童会主催のゲーム集会に参加。6年生が12のお店を運営します



が、縦割り班の低学年児童の面倒は5年生が一手に引き受けました。これまで高学年の指示に従って活動してきた5年生ですが、縦割り班誘導のリーダーとして下級生の面倒を一生懸命みていました。思うようにいかなかったり、普段の生活の中では気付かなかったところまで知ったりする中で、高学年としてどのような責務を果たすべきなのかを体験し、しっかりと成し遂げることができました。普段からおとなしそうに見える児童が、嬉々として下級生の世話をする様子を観ながら、コロナ禍で、行事なども規模

が縮小されたり、削除されたりする中、縦割り班活動の持つ本来の意味を再確認できました。これからも学校のサブリーダーとして活躍していただきたいと思います切に思った次第です。

今年度のコミュニティスクール

去る6月17日（金）に、令和4年度田富小学校運営協議会（学校運営協議会を設置している学校をコミュニティスクールといいます）を開催しました。本年度の協議会委員の皆さんは下の表の通りです。

一昨年度までは、授業を参観していただきながら、子ども達の学習活動の様子もみていただいていたのですが、感染症拡大防止のため、授業参観などは中止していました。が、今年度は、6校時間帯に、4～6年生の授業の様子を観ていただくことにしました。田富小教育について協議する上で、子ども達を観ていただくことが何よりだと思ふからです。この活動は任意でしたが、多くの委員さんが授業を参観していただき、その様子から田富小の教育活動の一端を知っていただけたように思います。

さて、1回目は、令和4年度の学校経営方針等について、提案させていただき、本年度の活動方針について承認していただきました。会の中では、委員さん方から貴重な御意見をたくさんいただきました。「基本的な方針に関しては継続していくことが大切であるが、コロナ禍で、児童の活動も様々な面で変革していくこともあると考えるが、教育的価値や子どもの成長についての必要性など、しっかりと考えながらしていかなければならない。」「地域の教育力を子どもの学びに活かすことだけでなく、子ども達から地域にむけて働きかけたりすることも大切。」「外国籍児童生徒に関して、更に小中学校で連携していくことが必要。」等、とても大切な御示唆をいただきました。今後の田富小学校教育の充実と発展のために、学校運営協議会を通して、さらに努力していきたいと思ひました。

会長 田中 正清	委員 田中三枝子	委員 戸田 忠雄	委員 藤巻 稔
副会長 林 兵仁郎	委員 甲田 雄強	委員 丹澤 博	委員 小川 貴史
委員 村松 大地			

令和4年度の学校運営協議会、委員の皆さん（敬称略）

1年間 よろしくお願ひします。

徐々に蘇る教育活動

令和4年度は3年ぶりに水泳の授業を実施しました。「マスクをつけない教育活動」ということで、昨年度まで中巨摩地区ではほぼ全部の学校で実施していなかったものです。全国的にも令和4年度から実施していくとする学校が多くなっているようです。その理由のひとつに、水泳を授業の中で体験していない児童数の多さがあります。例えば、今年3年生の子ども達は小学校入学以来、学校教育の中で、水泳を経験してることができませんでした。しかも、小さなプールでの経験もなく、いきなり大きなプールを使う学年となっています。いかに速くクロールで泳げるか、効率的な水のかき方で美しい平泳ぎが泳げるかといったレベルの話ではありませんが、水に慣れ、水に親しみ、少なからず自らの命を守るために最低限必要なことを中心に学ぶ必要があるのではないのでしょうか。入る人数によってかなり密な状態を作ることから、これまでとは全く違った形での水泳であり、児童にとっては、あまり「楽しくない」水泳授業であったかもしれませんが、少なくとも、水泳に対する一歩を踏み出すことができたことが大きな経験だったと思ひます。



もうひとつ、6年生の親子活動も復活しました。夏休み中のプール開放は、感染症の関係でできないので、6年生の保護者の方に監視をしていただくことはないのですが、親子で、緊急の状況に遭遇した時どう行動すべきか、心臓マッサージの仕方とAEDの使い方を学びました。親子で熱心に学ぶ姿があり、講師の赤十字の方がびっくりするくらい、いろいろな質問が飛び交う有意義な1時間になりました。

水泳については、1学年6時間分の授業、6年生の親子活動も年に1回の行事でしたが、少しずつコロナ以前の教育活動が蘇りつつあることに嬉しさを感じる今日この頃です。